

## 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「衣を正し、時を守り、場を清める、そして自分を磨く」の教育目標のもと、社会で通用する規範意識を醸成する。また激動の社会で力強く生き抜き、生涯を通じて学び続ける力を高めようとする姿勢を育む。

- 1 基礎学力を確立したうえで、希望する進路先において論理的かつ科学的な発想ができるように、思考力、判断力、表現力を育成する。
- 2 特別活動や課外活動の活性化に力を注ぎ、自発的な行動力、創造的な企画運営力等を伸ばし、将来社会生活で活かすことができる資質を育成する。
- 3 挨拶励行・時間を大切にす・整理整頓実行・清潔な着衣など、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。
- 4 寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導を重視し、生徒や保護者から信頼され、安心して学ぶことができる学校となる。
- 5 全ての生徒が他者理解や思いやりの心を持つとともに、自らを大切に、夢や希望を持って新しい社会を切り開く態度を育成する。

## 2 中期的目標

## 1 社会で通用する基礎学力の定着と希望する進路実現

(1) 基礎学力の充実と ICT 等を活用し、効率よく効果的な授業を行う。

ア 1年時の国数英授業において、生徒の理解度や希望する進路に応じて少人数習熟度別授業を行って基礎学力の充実を図る。

イ 教科・科目の特質等を踏まえた上で、1人1台端末及びプロジェクター等、ICT を効果的に取り入れるとともに、生徒が協力して学び、成果をアウトプットできる授業を推進する。

※ 少人数授業アンケートの実施教科平均の肯定率 令和9年度 90%以上を維持 (R4 : 95%, R5 : 93%, R6 : 93%)

※ 教育産業の1・2年生基礎力診断テストのGTZ 平均値(国数英) 令和9年度までに D1- (R4 : D1-, R5 : D2+, R6 : D2-)

(2) 生徒が希望する進路の実現を図る。

ア 一人ひとりの生徒が希望する進路を実現するために、進路指導部、担任団が緊密に連携し、きめ細かい指導を実践する。

イ 将来に夢や志を持って自己の可能性を広げ、自らの職業観・勤労観の形成を重視したキャリア教育を行う。

※ 3年生徒向け「自分の希望した進路への満足度」 R9年度まで 90%台の維持 (R4 : 96%, R5 : 98%, R6 : 94%)

(3) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業を行うとともに、教員の授業力の向上、生徒の授業満足度の向上を図る。

※ 生徒向け学校教育自己診断の授業満足度 令和9年度 80% (R4 : 74%, R5 : 79%, R6 : 79%)

## 2 多様で変化が激しい社会で生き抜く力の育成

(1) 遅刻指導や美化活動等の適切な生活指導を実践し、社会人として通用する規範意識の定着を図るとともに、安全で安心な学校作りをめざす。

ア 学校目標である「時を守り」を生徒に十分意識させ、粘り強く遅刻指導を継続し、遅刻数を減少させる。

イ 課題を抱える生徒について支援委員会を中心に指導方針を明示し、SC・SSW と連携し、生徒情報交換、ケース会議等を実施し生徒を支援することで生徒が安心して学校生活を送れるようにする。

※ 遅刻者数 令和9年度 3000 以下 (R4 : 3222, R5 : 3280, R6 : 4212)

※ 生徒向け学校教育自己診断「困ったことや悩みがあるとき相談できる先生がいる」肯定率 令和9年度 72% (R4 : 64%, R5 : 70%, R6 : 69%)

(2) 特別活動等の活性化を図る。

ア 生徒会行事、学年行事、部活動を活性化し学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活を送ることができるよう支援する。

イ 部活動、各種検定等の優秀者に対し、全校集会等の際に「守口東激励賞」を贈り、特別活動への参加や検定試験受験に向けたモチベーションアップにつなげる。

※ 部活動加入率 令和9年度 40% (R4 : 27%, R5 : 38%, R6 : 38%)

※ 生徒向け学校教育自己診断「学校行事が楽しい」肯定率 令和9年度 85%以上を維持 (R4 : 77%, R5 : 87%, R6 : 85%)

(3) 「いじめ防止対策推進法」のいじめの定義を踏まえ、いじめを認知した際には「いじめは絶対に許さない」との強い決意のもと、迅速かつ適切に対応する。

※ 生徒向け学校教育自己診断「先生はいじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定率 令和9年度 85%以上を維持 (R4 : 83%, R5 : 86%, R6 : 86%)

(4) 災害発生時に迅速かつ安全に対応できるよう、市や近隣施設とも連携した訓練を実施し、万全の防災体制を構築する。

## 3 地域に愛される魅力ある学校づくり

(1) 情報発信と外部組織との連携を図る。

ア 異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携等の機会を設定し、協働の意識を醸成する。

イ Web ページ、メールマガジン、電光掲示板メッセージ等を充実させ、学校内の教育活動を内外に発信するとともに、中学生にとって入学したい学校となる。

※ 保護者向け学校教育自己診断「HP やメールマガジンで学校の様子がよくわかる」肯定率 令和9年度 80% (R4 : 74%, R5 : 76%, R6 : 69%)

(2) 授業等を通じた国際交流を行うとともに、自身のキャリアデザインを考え、グローバルに活躍できる人材を育成する。

## 4 働き方改革の推進と機能的な校内体制の整備

(1) 働き方改革の推進に全教職員で取り組む。

※ 教職員向け学校教育自己診断「働き方改革を進めよう意識している」肯定率 令和9年度 80% (R6 : 74%)

(2) 安全衛生委員会で得られた情報を提供し、教職員間の意思疎通を円滑にするとともに、働きやすい職場の実現をめざす。

※ ストレスチェック分析結果における「職場の総合健康リスク」ポイント(全国平均 100 で低い方が理想)

令和9年度教育庁全体平均ポイント以下を維持(本校/教育庁全体 R4 : 98/98, R5 : 88/99, R6 : 91/98)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【進路指導・生徒指導等】(※以下 [ ] 内は前年度結果)</p> <p>・生徒「学校へ行くのが楽しい」が 79% [80%] となりポイントが高いレベルだが下がった。否定的な層がどの学年にも 20%程度いることに注視していく必要がある。</p> <p>・生徒「進路を考える機会があり、進路指導を適切に行っている」が 88% [89%] と高いレベルを維持できている。進路指導部、3学年担任団の丁寧な指導が評価されている。</p> <p>・生徒「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」83% [86%] であった。各担任、学年団、教育相談などが連携して生徒対応した結果が表れた。</p>	<p>【第1回】 7/7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SC、SSW の活用状況はどうか。</li> <li>・学校特色枠入試に向けて、生徒、保護者に伝わりやすい表現を検討してほしい。</li> <li>・生徒の良さは明るく仲が良いところ。そこが伸びてほしい。</li> <li>・生徒には集団の先頭に立つ経験をしてほしい。</li> </ul> <p>【第2回】 12/11</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別授業について ICT を活用すると個人進度に合わせて有効。</li> <li>・ホームページのブログを更新しているのにわかりにくい。</li> <li>・SNS の検索導線を改善する必要がある。</li> <li>・ホームページと SNS が「ワンタッチでつながる」ような工夫が必要。</li> <li>・国際交流(姉妹校交流支援事業)を検討する上で、近隣校との差別化が必要。</li> </ul>

府立守口東高等学校

<p><b>【学習指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒「授業は分かりやすくなる。」は77%[79%]であった。教員「授業力向上のため、工夫・改善に努めている。」が100%[90%]と大幅に上がったが、生徒と教員のポイントの差が何に起因するのかを考える必要がある。</li> <li>・生徒「一番望む授業」については             <ul style="list-style-type: none"> <li>①高校生として基礎学力が身につく授業</li> <li>②生徒に応じて授業レベルやスピードを細かく調整する授業</li> <li>③進路希望が実現できるように学力を高める授業</li> </ul> </li> </ul> <p>の順番であった。教員にも「授業で一番気を付けていること点」について尋ねたところ、生徒、教員ではともに①がトップ、②が次いでいる。生徒のポイントでいうと、①が昨年度39%から47%と大幅に伸びた。教員も54%から58%と伸びている。基礎学力をつけたいというニーズの増加に対して、教員が応えようとしていることが数値にあらわれている。</p> <p><b>【学校運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員「分掌や学年の連携がとれていて、組織的に学校運営が行われている」は78% [69%]となった。生徒層の変化に合わせて、教員が力を合わせて対応しようとしている結果である。</li> <li>・教職員「教職員は生徒の意見をよく聞いている」が97% [92%]、一方生徒「本校の校長、先生達は学校をより良くしようと頑張っている」が86% [86%]となった。教職員の生徒に寄り添う姿勢がポイントに表れた。これを継続するようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の学校教育自己診断「自分の希望した進路に満足」の肯定的評価90%以上は、学校としてもっと強調して発信すべき。</li> <li>・分掌長などを含め各担当者の交替後も取り組みが継続できるように後継者の育成及び体制の構築が必要。</li> <li>・今後も社会で通用する規範意識を育む教育活動をしてほしい。</li> </ul> <p><b>【第3回】 2/25</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和8年度学校経営計画「めざす学校像」「中期的目標」について承認された。(意見)</li> <li>・多様性が求められる社会にあって、学校全体の数値に縛られすぎず個性を持たせることも必要。</li> <li>・中学校では教員数が少ないのでICTの活用を一気に進めることができた。まずは教員がICTリテラシーを上げる必要がある。</li> <li>・令和8年度の経営計画から守口東の柱である「普通科である」こと、「規範意識をつけさせる」ことが読み取りにくい。</li> <li>・GTZ(学習到達ゾーン)の客観指標をなくすのは、校内で自己満足に終わる危険があるため残すべきではないか。GTZの上位層にフォーカスすることも大切ではないか。</li> <li>・経営計画を見て、生徒のニーズに合わせていると思う。生徒の意見を通すという経験を持たせることで規範意識を育てることができるのではないかと。また、生徒指導の転換ができるのではないかと。</li> </ul>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 社会で通用する基礎学力の定着と希望する進路実現	(1) 基礎学力の充実とICT活用授業 ア 少人数習熟度別授業の実施 イ 教科・科目の特質等を踏まえ、授業におけるICTの効果的な活用	(1) ア 1年生国数英は少人数習熟度別授業を行い、個別最適な学びを意識して取り組む。 イ 各教員が教科・科目の特質等を踏まえた上で1人1台端末を効果的に活用した授業に取り組むとともに、事例の紹介、共有を行う。	<学校教育自己診断は生診：生徒、保診：保護者、教診：教職員と略> (1) ア 少人数授業アンケートの平均肯定率90%以上を維持93%[国91%, 数97%, 英92%] イ 1人1台端末を活用するように取り組んだ授業実施の教員80%以上を維持 [84%]	(1) ア 少人数授業アンケートの平均肯定率93% [国97%, 数90%, 英91%] (○) イ 1人1台端末を活用するように取り組んだ授業実施の教員72% (△) 教員のICTスキル向上のため、次年度は校務のICT化に力を入れたい。
	(2) 希望する進路の実現 ア 一人ひとりの生徒が希望する進路の実現 イ キャリア教育	(2) ア ・進路の実現のために、前向きな姿勢で全教職員が全力で生徒をサポートする。 ・進学講習や面接練習、個別対応を継続的に行う。 ・各種検定試験について大学入試や就職試験の際の加点などのメリットについても説明し、受験を奨励する。また講習の実施、取得者の表彰を行い、自己肯定感を向上させ、将来の進路に生かせるようにする。 イ ・進路ガイダンスを実施し、様々な進路について早い段階から考える機会を設ける。 ・高専大連携として出前授業を実施する。	(2) ア ・3年生診「自分の希望した進路に満足」90%以上を維持 [94%] ・検定の受験者合計150人以上 [172人(英検18, 漢検38, 情報検62, ワープロ検54)] イ 出前授業参加者へのアンケート肯定率85%以上 [98.6%]	(2) ア ・3年生診「自分の希望した進路に満足」の肯定率は95%であった。(95%) (○) ・検定の受験者合計150人以上 [150人(英検16, 漢検14, 情報検70, ワープロ検50)] (○) イ 出前授業参加者へのアンケート肯定率85%以上 [100%] (◎)
2 多様で変化が激しい社会で生き抜く力の育成	(3) 主体的・対話的で深い学びの実現、授業力、観点別評価	(3) 首席を中心に「授業見学週間」や「研修」を実施し、生徒の授業満足度を高められるよう、全教職員が授業改善に取り組む。	(3) 教診「授業力改善」肯定率80%以上 [90%]	(3) 教診「授業力改善」肯定率100% (◎)
	(1) 規範意識の定着 ア 遅刻指導体制の充実 イ SC・SSW連携 (2) 特別活動等の活性化 ア 各種行事や部活動の活性化 イ 特別活動や検定試験への参加促進	(1) ア 家庭とこまめに連絡を取り、粘り強く遅刻指導を行うことを継続しつつ、新たに一定期間内で遅刻や欠席の無い生徒を表彰、称賛するなどし、時間を守ることの意義を生徒に理解させ、結果として遅刻者数の減少をめざす。 イ 支援委員会を中心にSC・SSWと連携しながら、寄り添う姿勢を大切にする。 (2) ア 部活動体験や部活動を応援する発信をし、部活動の良さをアピールして、加入率を向上させる。 イ 終業式等の全校集会時に該当生徒に守口東激励賞を贈り、特別活動や検定試験への参加を奨励する。	(1) ア ・年間遅刻者数を前年度より減少させる。[4212] ・皆勤賞を受ける生徒を全校生徒数の5%以上とする。[7.2%] イ 生診「困った事や悩みがある時、相談できる先生がいる」肯定率70%以上を維持[69%] (2) ア 部活動加入率35%以上を維持 [38%] イ 部活動表彰や検定合格者等に25人/回以上贈る。[27人/回]	(1) ア ・年間遅刻者数を前年度より減少させる。[6451] (△) 個別の遅刻指導に重点をおくため、次年度は指標からはずす。 ・皆勤賞を受ける生徒を全校生徒数の5%以上とする。[5%] (○) イ 生診「困った事や悩みがある時、相談できる先生がいる」肯定率は76%であった。(◎) (2) ア 部活動加入率は44%であった。(◎) イ 部活動表彰や検定合格者等は25人/回を下回った。15/回 (△) 人数を指標とすると、団体か個人かで差が付いてしまうので、次年度は表彰件数を指標とする。

## 府立守口東高等学校

	<p>(3) 心の教育の実践 ア 他者理解や自分を大切にす心の教育 イ いじめへの迅速かつ適切な対応</p> <p>(4) 防災体制の構築</p>	<p>(3) ア 人権 HR や各行事等を通して生徒が他者を理解し、思いやりの心を持つとともに、自らも大切にす心を育てる。 イ いじめを認知した際には、いじめられた生徒の立場に立って、迅速かつ適切に対応する。</p> <p>(4) 南海トラフ地震等の今後発生が予想される自然災害等に則した避難訓練(予告なしを含む)を実施する。</p>	<p>(3) ア 生診「生命を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てようとしてす」肯定率 80%以上を維持 [91%] イ 生診「先生はいじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定率 80%以上を維持 [86%]</p> <p>(4) 具体的な災害を想定した避難訓練 2回 [2回]</p>	<p>(3) ア 生診「生命を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てようとしてす」肯定率は 88%であった。(○) イ 生診「先生はいじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定率は 83%であった。(○)</p> <p>(4) 具体的な災害を想定した避難訓練は 2回実施した。コロナ禍以降中断していた近隣幼稚園、保育園との合同訓練を実施することができた。(◎)</p>
<p>3 地域に愛される魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 情報発信と外部組織との連携 ア 校種間交流や地域コミュニティとの連携 イ 情報の発信と、中学生の行きたい学校</p> <p>(2) 地域に愛され保護者に理解される学校</p> <p>(3) 国際交流の推進</p>	<p>(1) ア ・地元中学校への出前授業や中学校内説明会への参加を積極的に行う。 ・中学校等校種の違う学校の授業見学、交流を実施する。 イ ・Web ページをリニューアルし、見やすくわかりやすいホームページとし、本校の取組みや魅力、生徒の活動を発信し、ブログを含め記事を随時更新する。 ・正門横電光掲示板で生徒や地域の方に向けたメッセージを時期に応じて変更する。 ・学校説明会、オープンスクール等を参加者にとってわかりやすく、内容をしっかり伝え、満足度の高いものにする。</p> <p>(2) 地域との交流の機会をもち、保護者に理解される学校運営を行う。</p> <p>(3) 授業等を通して、インターネットによる交流や外国の方を本校に招いた直接的な交流を行う。</p>	<p>(1) ア ・出前授業、説明会 5回以上 [8回] ・中学校等の授業見学、交流を 3回以上実施 [4回] イ ・Web ページ更新 130回以上 [168回] ・保証「Web ページやメルマガで学校の様子がよくわかる」肯定率 70%以上 [69%] ・電光掲示板 20回以上更新 [27回] ・学校説明会等の参加者アンケートの肯定評価 85%以上 [99.6%]</p> <p>(2) 保証「守口東高校の校長、教職員は学校をより良くしようと頑張っている」肯定率 75%以上 [82%]</p> <p>(3) 国際交流を 2言語で計 2種類以上行う。 [3言語計 3種類]</p>	<p>(1) ア ・出前授業、説明会は併せて、5回実施予定。(○) ・中学校への授業見学は 1回実施した。クラブの交流、出前授業等、5回実施した。(○) イ ・Web ページ更新 41回であった (△) 現在、新しい HP を構築中のため、今年度の更新は控えた。 ・保証「Web ページやメルマガで学校の様子がよくわかる」の肯定率は 68%であった。(○) 現在、web ページを改編中である。新しい web ページは PTA や同窓会も巻き込む形で考えている。 ・電光掲示板の更新は 1回。(△) 電光掲示板を操作する PC が老朽化しているため次年度は指標からはずす。SNS での発信に力を入れたい。 ・学校説明会等の参加者アンケートの肯定評価 100%であった。(◎)</p> <p>(2) 保証「守口東高校の校長、教職員は学校をより良くしようと頑張っている」肯定率は 82%であった。(○)</p> <p>(3) 国際交流を 3言語計 5種類で行った。(○)</p>
<p>4 能的な校内体制の整備</p>	<p>(1) 働き方改革の推進 (2) 働きやすい職場の実現</p>	<p>(1) 働き方改革の推進として、業務の見直し、修正などの取組みを進める。 (2) 安全衛生委員会で得られた産業医の専門的な情報を職員に提供する。上司からのサポート、同僚としての協力体制に努め、働きやすい職場の実現をめざす。</p>	<p>(1) 教診「働き方改革を進めようとして意識している」肯定率 70% [74%] (2) ストレスチェック「職場の総合健康リスク」教育庁全体平均ポイント以下を維持 [91ポイント/教育庁全体 98ポイント]</p>	<p>(1) 教診「働き方改革を進めようとして意識している」肯定率は 78%であった。(○) (2) ストレスチェック「職場の総合健康リスク」教育庁全体平均ポイント以下を維持 [83ポイント/教育庁全体 94ポイント] (◎)</p>